2010年1月5日（火）のゲスト

大江健三郎

1935年、愛媛県生まれ。
東京大学文学部フランス文学科在学中の1957年、「奇妙な仕事」が注目され、翌年、「飼育」で芥川賞を受賞。新世代の文学の旗手として認められ、以後、つねに現代文学の最先端に位置して作品を発表。主な作品に、「個人的な体験」「万延元年のフットボール」「洪水はわが魂に及び」「雨の木」（レイン・ツリー）「自分の木の下で」など。常に新しい文学理論を踏まえた創作方法で日本文学はもとより世界文学全体に大きな影響を与えてきた。また「ヒロシマ・ノート」など評論家としても行動的な姿勢を示す。1994年、日本人で二人目となるノーベル文学賞を受賞。1997年には米国芸術アカデミー外国人名誉会員に選出された。
2009年12月、真正面から父親の死を題材にした長編小説「水死」を発表した。

大江健三郎さんへの質問・メッセージをありがとうございました。

大江健三郎さん情報（放送日現在の情報です。）

本日番組で紹介した最新著書
「水死」（講談社） 著者： 大江健三郎

ウインドウを閉じる